

# 日山協自然保護ニューズレター (平成27年秋号)

発行日 平成27年11月24日 発行元 公益社団法人日本山岳協会自然保護委員会

## 山の野生鳥獣目撃レポート

山の野生鳥獣目撃レポートの1年の活動

- 1) ホームページへのアクセス  
(2014/11/1~2015/11/17 調査)  
アクセス数: 2,412件 閲覧ページ数: 5,339件  
アクセスの地域割合: 東京 30.7%、大阪 8.7%、  
神奈川 7.9%、埼玉 5.9%、愛知 4.9%
- 2) レポート件数 (2015/11/17 現在)  
累計: 827件
- 3) 集計結果  
詳しくは: ホームページにて公開中です。

新しいリーフレットを作成しました。既に加盟団体宛てへは配布しておりますが、追加配布の希望があれば日山協会事務局宛て請求願います。

「山の野生鳥獣目撃レポート」はインターネットを利用してホームページから情報を集めて、その集計データの公表を行っています。詳しくは、次から検索で。

山の野生鳥獣目撃レポート

www.jma-sangaku.or.jp/conservation/yaseichoju/

ホームページが提供する内容

- レポートの送信をする
  - ① 種類、数、日付、時刻、場所、場所の様子、天候など7つの項目をレポートする。
  - ② 目撃地点の地図入力
  - ③ 写真があれば画像データを添付することもできます。
- 結果を見る
  - ① 集計データのグラフ
  - ② 目撃地点の地図表示
  - ③ 数値データ(CSVデータ)のダウンロード

※入力データは瞬時に結果へ反映します。

山の野生鳥獣目撃レポート

このホームページは公益社団法人日本山岳協会のドメインサーバーを利用して運営しています。

ツイッター  
https://twitter.com/mount\_nature/

メールアドレス  
wildlife@jma-sangaku.or.jp

この調査は「山岳団体自然環境連絡会」(日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟、日本山岳会、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト、東京都山岳連盟、山のECHO、日本山岳ガイド協会)が連携し、全国的な活動を行っています。

あなたの目撃情報が、自然の生態系を守ります。

ライチョウ  
ニホンカモシカ  
ニホンザル

## 山の野生鳥獣目撃レポート

このレポートでは、登山者の皆さんが山で目撃した野生鳥獣の情報を集めています。

山岳団体自然環境連絡会

JMA HAF-J ECHO

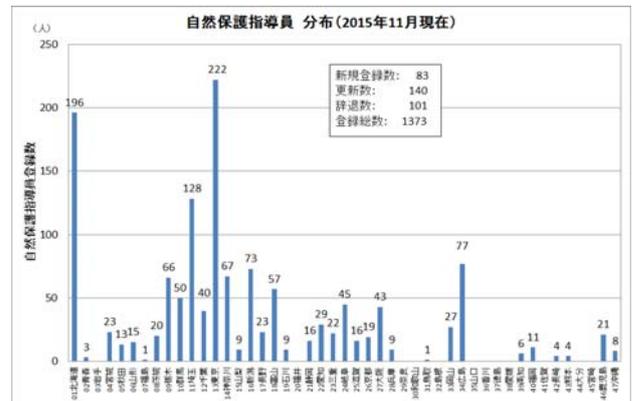
このリーフレットは、自然保護員ボランティアファンドからの助成金を利用して作成配布しています。

(山の野生鳥獣目撃レポートウェブページ URL)

[www.jma-sangaku.or.jp/conservation/yaseichoju/](http://www.jma-sangaku.or.jp/conservation/yaseichoju/)

## 平成27年度自然保護指導員登録状況

平成27年度自然保護指導員は11月17日現在で、新規83名、更新140名を受付けた。また、本年度失効数が101名となり、現在の全登録数が1,373名となった。



## 第39回自然保護委員総会



9月12日から13日の2日間、「国立磐梯青少年交流の家」にて、26加盟団体から110名の参加を得て、福島県山岳連盟主管のもと第39回総会を開催した。

1泊2日の日程で開催したこの総会を「山岳自然の集い 福島県大会」サブタイトルに、テーマを「いわはしやま(会津磐梯山)の自然保護と火山防災に学ぶ」とし、通常議事に加え、磐梯山にまつわる基調講演と実際の現地の様子を見聞し、火山と自然を考える集いとした。

### 開会式

13:20~

1. 司会挨拶 自然保護委員会事務局長 小高玲子
2. 開会宣言 自然保護委員会副委員長 西山常芳
3. 主催挨拶 日本山岳協会副会長 尾形好雄

(挨拶要旨) 今年の5月の定期総会で八木原会長をトップに新体制がスタートしました。公益法人化から3年目を経りましたが、定款の目的を行うため登山と山岳スポーツの両輪をパラレルで運営していくと公言致している。これを円

滑に致すため各種上部団体に加盟をいたして進めているところ。そして競技団体としてミッションを背負っております。スポーツクライミングの競技種目としての脚光を浴びるようになり、競技団体としての色合いが益々強くなってきている。一方、登山の分野では中高年の時代は過ぎ、今や若返りが見られるところですが、その多くは未組織登山者となってきており、以前と登山の様相が違ってきている。受け皿としての日山協の責務が不可欠とも考えます。「山の日」の祝日が制定されたことをチャンスと捉え、総会に出席の各位においては、山の自然の楽しさに加えその大切さを次の世代に伝えていくよう精励されることを期待する。また、地球規模の環境が劣化の一途を辿っていることに対し、その歯止めを配慮する環境保護について検討を進められるよう期待します。この大会が実り多い総会になりますよう祈念し、福島岳連の皆さまに感謝申しあげます。

#### 4. 主催挨拶 自然保護委員長 松隈豊

(挨拶要旨) 本総会の参加都道府県は 26 団体、113 名の参加をいただいた。連日の災害に及ぶ悪天候で本開催が危ぶまれましたが、それを押しのご参加を頂き誠にありがとうございます。二日間の総会を実りあるものされるようご期待申し上げます。討議の資料を 2 冊の冊子にまとめて用意いたしましたご活用をお願い申し上げます。

#### 5. 主管挨拶 福島県山岳連盟会長 尾形一幸

(挨拶要旨) この福島にお越しいただき、心から歓迎を致します。福島といいますと 4 年 10 ヶ月前の大震災で様々な出来事が起こりました。また昨日までの長雨により災害が当地を襲いました。この災害に遭われた皆様にお見舞いを申し上げます。福島は現在復旧復興中ではありますが、まだまだのところがございます。これを如実に表すのが福島県を訪れる登山者数で、以前の 45%ほどにとどまっています。これだけの素晴らしい山がありますものの足を向けていただけないのは残念です。復興がなって、平穩の福島に戻りますようお願いしています。明日は磐梯山へ登山頂くのですが、この山に逸話があります。標高がお分かりでしょうか。以前は 1819 メートルございました。6 年前に猪苗代山岳会の方々が亡失した三角点の再建を行いました。天皇皇后両陛下が福島へお越しの折り磐梯山の標高を、ヌル湯の主人の二階堂さんお尋ねになり、磐梯山が男か女かとの話から始まりまして磐梯山の歌詞「奈良の大仏婿にとり」との一節から女性であるとなって、「満で 18、数えで 19」ということで覚えるよろしいとなりました。更に陛下から噴火前の標高をお尋ねになったということです。答えは講演であろうかと思えます。長い話になりましたが、2 日間の総会が無事終了しますよう祈念しております。

#### 6. 基調講演(演題 「1888年の磐梯山の噴火とジオパーク」) 14:10~15:10

磐梯山噴火記念館副館長 佐藤 公(ひとし)氏を招き、磐梯山と火山災害について講演を聴講した。概要は次の通り。

(講演要旨) 福島の尾形さんに話にもありましたが磐梯山の現在の標高は 1816 メートルとなっています。噴火前も今も最高峰の大磐梯の標高は変わりませんがそ

の後の再測量で値が変わっただけです。大磐梯と櫛ヶ峰の間に 1750 メートルあったといわれる小磐梯が無くなっただけです。もっと昔は、現在の山頂が 5 合目といわれていますから、富士山と同じくらいの高さであったのだという地元の願望のような想像もあります。

火山とは第四紀(約 260 万年前から現在までの期間)に噴火したことのある山で日本に 250 座ほどあります。そのうち、概ね過去 1 万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山を活火山といい、国内には活火山の数は現在 110 座、常時観測の火山は 47 座ある。火山のとても多くあるのにそれらに対する認識は山登りをされる方にはとても低いように見受けます。火山の成り立ちを卵にたとえますと、殻の部分を地殻(50 キロメートル前後の厚さ)といい、白身の部分をマントルといい、そこで火山のもととなるマグマが作られます。そして黄身の部分が核といい、もっとも熱く半径が 3,400 キロメートルほどあります。それで、日本の場合火山はプレートが衝突する付近で、島弧型火山(最近ではプレート沈み込み型火山)と呼ばれます。地球上で十数枚あるプレートのうち 4 枚が日本列島周辺にあり、プレートと火山・地震が密接な関係があり、このことが分かったのは 50 年ほど前の事です。日本は地震大国と呼ばれるように世界では 10 年間に 2,000 回ほど起きていますが、そのうちの 2 割は日本で起きています。国土面積(世界の陸地面積の 0.25%)の割にはとても大きな値となります。また火山も世界で 1,500 座ほどあるうちの 7%が日本です。日本は多くの自然災害を長年経験してきた国民であるわけです。日本で最も火山が多いのは、伊豆諸島・小笠原諸島へ連なる火山帯を擁する東京都であることに注目したい。

昨年噴火災害を招いた御嶽山は、1979 年と 2014 年噴火しているが両方とも同じ規模の水蒸気噴火であった。水蒸気噴火の場合には前兆現象が起きずわかり難く、突然の爆発を招く。噴火後 5 分と立たないうちに噴煙は 6 キロメートルほど上り、風にたなびき火山礫(噴石)が、野球ボールサイズの噴石が時速 200~300 キロメートルで落下してきた。丁度その下に登山者が沢山いて、噴石にあたって殆どが亡くなってしまいました。噴火から 5 分後の短時間で避けようがない、恐ろしい噴火でした。そこに逃げ遅れの心理について、正常性バイアスということを知られたかと思えます。すなわち異常事態が発生してもそれを正常範囲としてとらえ心を平穩に保とうとする心理が働いたと考えられている。これは大切な機能ですが、根拠のない自信を招くことにもなりかねませんので、特に大きな自然災害の時にこの正常性バイアスが働いてしまいますと、逃げ遅れてしまいます。遺留品のカメラを見ますと、ほとんどの方が噴火の様子を撮影していました。まさか 5 分後に頭上に噴石が落下してくるとの予想すらしていなかった証拠です。4 年前の 3.11 のときも 7 割ほどの人たちが予め避難をしなかったそうです。正常性バイアスをリセットして、自然災害の時はまず逃げるのが肝心です。生還された方々の手記にもまず逃げる大切さがうかがえます。今山に登られる方の多くがその山が火山であることを認識せずに登っています。一方、今年の 5 月 29 日に口ノ永良部島の噴火のとき、小さな島ですが昨年 8 月にも噴火しており、そ

のあとすぐに御嶽が噴火したわけですが、住民 130 人のみなさんは神経を尖らせておりました。より安全な場所へ避難所を移設し、何度となく避難訓練をしていたため、人的な犠牲は起きませんでした。これらを経て今年に活火山法（活動火山特別措置法）が改定されました。登山の関係のガイドブックは多々ありますが、火山であることについての説明記載がない。これが問題であることの認識が必要ではないでしょうか。

噴火警戒レベルは気象庁が 2007 年に導入したシステムですが、火山の活動をわかり易く伝えるため、5 段階に分かれています。レベル 1 が平常、レベル 2 火口周辺規制、レベル 3 入山規制、レベル 4 避難準備、レベル 5 の避難の 5 段階です。しかしながら、御嶽山がレベル 1 で噴火したように、正解率 2 割程度と不都合な点があります。レベル 1 も「留意」という表現に変わった。

福島県の活火山は吾妻山（東・西・中の 3 座、噴火レベル 2）、安達太良山（噴火レベル 1）、磐梯山（噴火レベル 1）の 3 座ある。磐梯山は 1888 年 7 月に噴火を起こし、大音響とともに爆発、短時間に爆発が 15~20 回反復して小磐梯山の大半を崩壊させた。同時に琵琶沢沿いに疾風（火砕サージ）と土石流が発生し、南東山麓の村を破壊した。この時発生した大規模な岩屑なだれ（45~77km/時）が山麓の集落を埋没させ、多くの死者が出る大災害となった。また、長瀬川が埋没させ桧原湖、小野川湖、秋元湖、五色沼等が形成された。噴火後の磐梯山の調査は当時最高の専門家が参加している。この時代はまだ火山学が確立されていなかったが、この時発生した大規模な山体崩壊と岩なだれは米国セントヘレンズ火山の 1980 年噴火での活動でも注目された。磐梯山は 2000 年に火山活動が活発になり入山規制等が行われたが当初は対応が円滑には進まない面もあった。結果的には噴火等は発生せずまた、火山防災マップ等が作成され、火山防災の面では前進がみられた。

磐梯山とその山麓一帯は日本ジオパークに認定登録されている。ジオパークとは地球活動の遺産を主な見どころとする自然の中の公園のことであり、大地の生い立ちと豊かな自然、そこに暮らす人々と大地の関わりがよくわかるジオパークである。

## 7. 総会議事

司会（議長兼任） 日山協自然保護委員会事務局長 小高令子  
事業報告 日山協自然保護委員会委員長 松隈 豊

### 7. 1. 各都道府県活動発表（要旨を掲載）

#### 北海道 佐藤健岳連委員

北海道の実情として自然保護指導員を 196 名登録いたしておりますが、高簾化などから活動は活発ということではありません。地域が広いことに加え人・資金の欠乏から、登山道整備など行き届かないところが多々あります。北海道に日本百名山が 9 座ありますがそのような状態です。広い地域に跨っているうえ、人手・資金・物資が不足していて、9 つある百名山の登山道の状況もよくありません。また、未だに希少植物の盗掘が絶えない。



#### 岩手県 長畑重弘岳協委員



登山普及部としては、岩手山八合目避難小屋の適正管理と環境整備を行っております。特に岩手山八合目付近登山道の土砂の流出が激しく、一番多く利用される新道柳沢コース登山道整備も行いました。また、ジュニア育成事業として、登山を通じて自然とのかかわりの素晴らしさの伝達し、子供達の自立心の育成、共同生活の在り方の体験をさせている。

#### 茨城県 田上正敏岳連委員兼日山協常任

自然保護委員は 32 名在籍のうち 10 名程が県北部に偏った活動となっており、全県的に展開することが課題となっております。尚自然保護指導員茨城県は 20 名の登録となって居ます。最高峰が 1022m の八溝山で県内の山はほとんどが里山である。自然保護委員会の活動は清掃登山・水質検査が主なテーマとなっている。茨城県北ジオパークの関係者と連携した自然解説などを盛り込んだ清掃活動が 2 年目を迎えます。



#### 栃木県 奈良忠男岳連副委員長



「栃木県百名山ガイドブック」参照し「著者と登る栃木百名山」への参加協力（5 月~11 月計 7 回実施）、日光清掃登山実施（H27 年 7 月） 200 名参加、ブレ山の日記念 PR キャンペーン（27 年 8 月） 30 名参加、那須でのクリーンキャンペーン&清掃登山（H27 年 9 月） 19 団体参加 登山道の整備も含んで行った。

#### 群馬県 斎藤長作岳連委員長兼日山協委員

多くの自然保護活動団体がある中、岳人ならではの「自然観察会」を重点に実施を目指している。また、登山行動を伴わない交流会などの行事は行わない。追加資料をお配りしましたが、群馬県では希少野生動物の保護に関する条例がようやくできた。山岳連盟からもこの条例審議員に加わっております。



#### 埼玉県 増田修副委員長兼日山協常任



埼玉山岳連盟創立 60 周年記念登山として、県内山岳 60 座のクリーン登山の実施。関東地区の自然保護委員会の方々との交流の場でもあった旧三峰分校（岳人の家）が閉所したが、この場所で各委員の方と楽しいひと時を持てたことはよい思い出となっている。

#### 千葉県 濱田伸岳連委員長兼日山協常任

自然保護指導委員 37 名おりますが、実際の活動はほとんど一人でやっているのが、現状。千葉の山に目を向けてほしいとの思いから、南房総の鋸山の植物観察会・調査を行いレッドデータ植物の報告書作成。千葉県の生物多様性センターへヒカゲツツジを始め 8 件の希少植物を報告しています。



#### 東京都 西山常芳岳連委員長兼日山協副委員長



現在指導員の数は230名程ですが、その中から専門委員に参加しているものは21名がおります。年齢層は20から70歳代と幅広ですが7割は60歳代です。これらの陣容で年間20件ほどの事業を行っている。

今後若い人の増加が課題。主として、秩父・多摩・甲斐国立公園を中心に①環境保全②調査③啓もう活動④研修・講習会の4つを柱に活動を行っている。

**神奈川県 松隈豊岳連委員長兼日山協委員長**

公的助成を獲得して4つの事業を行っている。それぞれの事業は各山岳会・クラブ・協会に協力して戴き実施。各メンバとはメールを通じて連絡をとり会議を進めていく体制をとっている。活動としては1) クリーン活動 2) 自然再生活動 3) 教育・研さん活動 4) 対外協力活動を行っている。



**山梨県 磯野澄也岳連委員長兼日山協委員長**

委員数が30名となり自然保護に対する機運が高くなっている。希少高山植物調査の山岳レンジャー制度が山梨県で行われており141名登録されている。活動内容はレンジャー報告として報告しておりますが、希少種の位置図を作って各地域の生育をまとめています。毎年話題になるのがシカ問題でこれに伴う植生の変化が報告されている。山岳レンジャーの研修会のテキスト冊子では花の見方や報告の仕方などを解説しています。3つの提言 ①ニホンジカ対策のための予算付②山岳トイレ整備③山岳トイレの利用者負担。山梨県の恵まれた山岳環境を後世に伝えることを使命として活動していきたい。



**新潟県 伊藤直岳協委員長兼日山協委員長**

研修会は2回実施。一回目は「頸城野の哺乳類」と題して妙高を中心とする自然体系を。特に火打山のライチョウの棲息状況について、二回目は「酒づくりは里づくり」と題して、新潟県は酒の生産が盛んなのは豊かな里山背景があるからとし、奥山に続く里山の自然を守ることに、と講演会を開催した。新潟県環境企画課との懇談会では登山道や山小屋の保全に向け具申をした。



**長野県 小林貞幸岳協委員長兼日山協常任**

主な活動として「八ヶ岳清掃登山」への協力。腕章身分証明携帯して活動する。県内各種自然保護団体との連携。個人的に「長野県自然保護レンジャー」に登録し活動。長野県は全国から登山者が集まる多数の山がある。山岳会所属の全員が自然保護委員であるという意識を持って活動している。



**富山県 藤井久一委員長兼日山協委員長**

楽しい登山・安全登山・自然に親しむ登山の普及のために一般公開で「県民登山教室」を開催し、今年で40回目を迎えた。自然保護指導員を対象に自然環境や自然保護の研修会として「自然保護セミナー」を開催し毎回20名程が参加。これらをメインに活動している。富山県ファミリーパークでもライチョウの人工飼育の雄3羽は元気育っている。山岳トイレのバイオ化も進ん



でおり、十数基が稼働している。

**福井県 山岸忠儀岳連委員**



自然保護活動としては①「里山と秋の山野草観察会」50名参加で成功、②夜叉ヶ池周辺の現状視察」で池の環境保全（岐阜県と連携）13年を迎え、環境安定。災害ボランティアとして、東日本大震災復興支援絆の旅」として2011年にボランティアとして参加した被災地を再訪した。県総合防災訓練にも参加。

静岡県 豊田稔岳連委員長兼日山協委員長

静岡県高山植物保護員制度や南アルプス高山植物ボランティアネットワークへも参加。富士山はユネスコ世界遺産登録から3年。増加する登山者と予想される噴火に対する施策の推進が必要。南アルプスではニホンジカの食害対策として防鹿柵を設置。近年鹿イノシシの食害が一層進んでいる。



**愛知県 鈴木行薫岳連委員長兼日山協委員長**

県自然保護委員会としての大きな行事は、①11月実施した三重県鈴鹿山系の「お金明神」に14名参加、②4月実施の長野県木曽福島城山（70種もの花観察）この二つの自然観察会である。

**三重県 橋本介何岳連委員長兼日山協委員長**

自然保護指導員募集するも応募者は少ないのが現状。鈴鹿山系での清掃活動が定着し、地元の観光協会と連携しながら3年間継続。鈴鹿山系（水晶谷など）には作業小屋などの埋設されたゴミ（ビン・缶）が毎年のように露出し、その回収にあたっている。鈴鹿山系連絡協議会ということで滋賀・愛知・岐阜が連携して啓発活動や情報交換をおこなっている。新人の自然保護委員を対象に研究会を開催。10月～11月を自然保護月間とし各山岳会で実施と報告をおこなっております。



**岐阜県 門屋峰雄岳連委員長兼日山協委員長**

伊吹山登山調査、整備交渉経過の報告岐阜県側からのルートが自動車専用道路を通るため、ルート上に「登山者禁止看板」が設置された。委員会では自然保護活動としてこのコース確認と看板、側道の幅を確認。この場所1キロに歩道ができないか今後行政やドライブウェイ会社と交渉したい。日山協の皆さんの支援を戴きたい。



**滋賀県**

(欠席につき、提出資料にて紹介)

**京都府 山本憲彦岳連委員長兼日山協委員長**

前置きとして、この総会では各都道府県の活動を知ることが楽しみにしていますので十分時間をとっていただくことを切望しております。



6月第一日曜日に京都府下一斉清掃登山大会を行っております。京都府と各地方自治体は連携して観光コースだけではなく登山コースを含んで行っております。これを啓蒙活動の機会ともしています。36団体プラス一般で600人の参加。観察会も行っておりますが、京都でも植物の絶滅危惧種が増えており、レッドデータブックの改正版も出ており、植物園などと連携して研

修会を行っています。

## 大阪府 松下至博岳連委員



4月29日のみどりの日に金剛山登山口で、公益財団法人大阪みどりのトラスト協会の「みどりの基金」活動に協力しており、その3割の岳連への還付

を財源に、試薬などの機材購入に充て、金剛山系・岩湧山系の4カ所で水質調査を実施しています。このほか六甲山で藤木祭を関係団体と協力しサポートしています。今後は自然観察会の実施、自治体と協力しての自然保護啓蒙活動。腕章をつけてのパトロールが啓蒙活動に繋がる。

## 兵庫県 吉野朱美岳連委員長兼日山協委員

「自然観察山散歩」を年間7回実施していますが今年は悪天候で6回となりました。この活動は魅力あるコースと講師の選定に留意し、歩きながら学習できる観察会を運営することか特徴です。例えば読図を学ぶとか植物観察の仕方、虫こぶや昆虫のことなどのプログラムを組み入れて、昼食休憩を利用するなどして居ります。人気が上がって、参加者が増えてきております。



## 鳥取県 松塚明徳岳協委員長兼日山協委員



一斉清掃・一木一石運動を実施しているが、4年前の総会報告に同じです。大山夏山登山道(ユートピアコース)修復は、昨年に飯豊連峰の登山道整備に担当した

方を講師に招き講習会を開き今年5月から実践を行いました。大雨での損壊もなく成果が出ております。昨年からの大山キャリアアップ(木道修復の角材をボランティアの協力で運び上げる)。今まで、キャリアダウンということで山頂の屎尿の搬出を4年間行ってきましたが、更に継続を希望する声があり、キャリアアップという形で再出発しました。自然保護委員会の構成が実質3名で、一般登山者(企業や組合なども)に声かけして協力依頼する運動のやり方が鳥取県の特徴です。

## 広島県 小田里子岳連自然環境委員長日山協委員



広島岳連では活動組織の名称を「自然保護」とは言わず「自然環境保護」として取り組んでいる。他県にはない独自の自然保護活動として、雲月山の「山焼き」がある。

4月の第一土曜日に行っています。山焼きによって、陽光獲得で地表植物の新芽に発生を促し、6月にはササユリなど開花が見られます。その他6月第一土日に「山の日」県民のつどいが開かれサポートしています。8月にも「山の日」ということでやりましたが、熱中症との戦いで実施の再検討が必要です。「水質検査」、「山のお弁当」、「広島県自然保護研修会」、自然保護活動の啓発活動等を実施。山のお弁当の利益は水質検査などの資金源にしています。

## 香川県

(欠席につき、提出資料にて紹介)

## 高知県 麻田正博岳連副会長兼日山協委員

社会啓発活動と自然保護活動PRとして、高知市の里山での清掃活動を行い多くの一般市民の参加を得ました。シカの食害を防ぐために山岳団体と県と連携し総勢200人



ほどで、駆除の取り組みも行っております。費用対効果からでは駆除頭数は少ないのですが、みんなで自然環境を守っていくとの取り組みとしては良と考えております。同じ観点で山岳連盟も協力を致しております。

## 大分県

(欠席につき、提出資料にて紹介)

## 長崎県

(欠席につき、提出資料にて紹介)

## 福島県 大内学岳連委員長兼日山協委員



岳連全体での行事を設けては居りませんが、加盟するそれぞれの団体に独自に登山道整備や植生保護などの活動をしております。原発事故以降、放射線量に関してそれぞれの山でデータをとっている。

「安達太良山岳会」としての活動について5月に山開きがあって山のパトロールを行っています。4月から11月に登山道の整備を実施。山小屋跡のゴミ処理、植生の回復、小学校登山の引率等の活動を行っている。トレランについて、安全対策が十分でないとの点から岳連として支援をしないと決定。団体としてトレランとどのように向き合っていくかは今後の課題である。

## 青森県 服部一雄岳連会長

青森県は登山道の整備が十分でない。特に南八甲田は遅れており、藪山化してきている。関係当局と協議しまして、猿倉温泉から榎ヶ峰までは整備が進みました。また、今年から、連盟も協力して追加整備を行うこととなりました。北八甲田方面でも、酸ヶ湯～大岳以外は藪道になっているところがあるので今年調査しており、ここ2～3年で地図上の登山道は復活させたいと思っている。



**7.2. 大会テーマの説明** 日山岳自然保護委員長 松隈 豊  
テーマは「いわはしやま(会津磐梯山)の自然保護と火山防災に学ぶ」。磐梯山は古く「いわはしやま」と呼ばれていた。天にまで高く懸かった岩の橋のこと。山は天上へ通じる場所と、古代から地元の人々に信じられて、大切にしてきた。粗末にすると天上の怒りが下る場所でもあります。まさに自然保護と防災との両面を考えることが必要です。基調講演に中にもありましたが、これからは火山を意識した自然保護や登山を励行して行きたいものです。

## 7.3. 次期開催予定地

常任委員会に一任とした

## 7.4. 閉会宣言 日山協 自然保護副委員長 堀江伸子

※都府県報告では役職を次のように略記しています。  
岳連(協)委員長:所属岳連(協)自然保護委員長  
日山協委員:日山協自然保護委員

## 第4回関東地区自然保護交流会

10月31日(土)～11月1日(日)、茨城県山岳連盟自然保護委員会の主管及び、日立市の後援にて日立市にて開催された第4回関東地区自然保護交流会に関係

者 51 名が集った。今回の交流会には関東地区 1 都 7 県の岳連からの参加に加え、長野県山岳協会からも特別参加を得た。

「自然を尊び、愛し、親しもう」と云う理念の元に、各県の現況などの情報を交換し、日立製作所の発祥の地となり、その基礎を築いた「日立鉱山」の諸問題と共に、その遺跡の見学、又日本最古、5 億年前のカンブリア紀が観察できる日鉱記念館など、茨城岳連のスタッフによる 2 日間の案内で、内容の濃い、交流会となった。

初日は日立市立会瀬(オオセ)青少年の家を会場に、茨城岳連中沢隆一自然保護委員長、田上正敏日山協常任委員の司会により、仙石富英日山協常務理事の挨拶で、第一部が基調講演と第二部交流会を第一日目、神峰山などエクスカーションを第二日目とし開催された。

第一日目の第一部の基調講演では、講師に金沢信二茨城岳連元会長を招き、「日立鉱山大煙害～公害問題の先駆け、煙害を克服した人々～」との演題で 1 時間ほどの講演となった。講演概要は次の通り。「4 大銅山のひとつに数えられる日立鉱山(明治 38 年創業)も、亜硫酸ガス(SO<sub>2</sub>)による煙害が深刻で、環境改善に向け、大煙突(当時面期的とされた高さ 155.7m の煙突によりガスの拡散を図る)と神峰山頂の気象観測所の施設建設や、煙害地への大規模な植生回復事業、住民の煙害補償の交渉などが巨額な企業投資が行われた。今でいう CSR の原点といえる。」— 公害の克服に向け、企業と地域の共存共栄や自然回復の中で奔走した人物列伝を伺い、自然保護をキーワード奔走した人々の厚い思いを感じさせる講演となった。

第二部は日山協、松隈自然保護委員長、二階堂章信茨城県岳連会長の挨拶を受け、各都県の自己紹介及び活動報告を取り混ぜ、参加者の全てが発言し意見交流を行い、夕方 5 時過ぎまでの実り多い交流会となった。

2 日目は 6 時半、起床、朝食後、日鉱記念館へ移動、途中、大煙突(現在は 54m を残して崩壊)を見学、日立鉱山が閉山するまでの 76 年間の活動した、展示物などを見学した後、今日の目的地、神峰山(かみねさん) 598m にハイキングしました。頂上から南西面の向かい側には、花の 100 名山で有名な高鈴山 623m(イワウチワ)があります。阿武隈山地の南端に位置する神峰山は首都圏からの日帰りハイキングのコースでも知られていますが、旧日立鉱山が操業していた場所でもあります。山頂にも気象観測所を設置して、風向きによっては、大煙突からの排煙を調整(操業の調整)したようです。山肌の回復の為に、耐煙性に強いオオシマザクラ、オオバヤシャブシ、ヒサカキなど植林活動のあとが見られて、記念館での説明に納得した次第です。下山後、茨城岳連スタッフの方々に見送られての、散会となった。



平成 27 年 11 月 7 日、国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 402 号室にて開催された第六回自然保護指導員研修会に 49 名が参加した。研修会の内容について、以下に報告する。

早朝 9:00 に開始された研修会は、東京都岳連から西山常芳自然保護委員長の主管挨拶にあと、約 3 時間に亘って、主催挨拶を兼ねて松隈日山協自然保護委員長から自然保護指導員制度について、東京都岳連の岡田博行自然保護副委員長からトレラン大会の利用ガイドラインの動向について、フィールドレポートや参加都県から活動報告のあと、元国立公園レンジャーの森孝順氏から「自然公園の現状と課題」と題した講演を聴取した。

日山協自然保護指導員制度についての説明では、今やオーバーユース等の利用者自身による問題のほか、地球温暖化、PM2.5、異常気象など、地域・国境を越えた地球規模の環境問題も重視されるようになり、自然を汚染・破壊する原因は多様・複雑になってきた。環境や社会の問題に対してあまりに巨大で、複雑であるために、その解決に無力感を感じてしまいうところであるが、誰かが実態を直視して、具体的に行動を起こさなければ、決して世界は変わらないという現実がある。"Think Globally. Act Locally." (地球規模で考え、足元から行動せよ) という金言にあるように、足元をから行動すること、すなわち登山者の立場ですぐにできることが自然保護指導員の基本姿勢と訴えた。

トレラン大会の利用ガイドラインの動向については、今春に環境省と東京都から相次いで出された自然公園利用とトレランに関するガイドラインを説明。ガイドラインが国民共通的な認識として示されたことは理解できる、トレランを始める人が増え、山、自然に触れ理解する人が多くなることは喜ばしい。しかしながら、研修会のたびに「登山道は最近荒廃が進んでいる」と認識する自然保護指導員がほとんどを占める現実や、山をより抑制的に利用しなければならない現実を踏まえ、自然環境が健全に維持されることが必要で、その本質を失わせるような「大会」はあってはならないとした。

フィールドレポートからの事例報告では、都山岳連盟で実施している入山山城の実況記録の実例報告を行った。こうした情報を蓄積することにより環境変化等の把握に資することが出来るとした。続いて行われた参加都県から、自然保護指導員を取り込んだ活動状況が説明された。

「自然公園の現状と課題」と題した講演では、国立公園の山岳域で起きている問題として、森林の荒廃、生態系のかく乱損傷、入山者のルールとマナーの 3 点に的を絞って説明した。日本の国土面積の 7 割が山林でありながら過疎高齢化から林業衰退を招き、山村文化の消滅、里地・里山の荒廃、ひいては林業の荒廃を招き、人工林の荒廃、災害を招いて、更には生態系に重大な影響が及んでいる。一方、山岳における自然環境を登山者側からの視点で見ると、ルールとマナーを徹底しなければ環境維持が難しいとも思える。例えば、遭難事故の増加、山岳トイレの維持管理、ペット同伴登山の増加、トレイルランの問題、自己責任の徹底、外国人登山者の増加、利用者負担、登山道の維持やストック利用やし尿持ち帰りなど自然環境保全、環境教育の欠如、登山道荒廃などといった課題が山積している。山に入って活動される皆様におかれては、是非よ

き手本となられることを期待するとした。



多数の痕で耕されてようになった  
※写真は小林委員提供のものを編集して使用

## 常任委員からの報告

(小林委員からの報告)

10月15日開催の自然保護常任委員会で、小林委員から「北アルプス 裏銀座縦走路の路面に付いたトレッキングポールの石突き痕」について報告があった。

最近、一般的な夏山登山でもトレッキングポールを持つ人が増えています。山にトレッキングポールを持つのが普通だと思っている人がかなりいるようです。特に中高年の方々は必須アイテムのようになっていくかと思われます。

足場の悪い岩場などの両手を使わなくてはならないところでは、まったく邪魔となるトレッキングポールですが、脚（特に膝）への負担の軽減や身体の平衡感覚のサポートには効果があるといわれています。しかし、トレッキングポールに頼りすぎて転倒したり、後続の人などにポールを突き刺すなど事故の原因ともなります。

また、登山者の多い山路では、トレッキングポールの石突きでできた穴が原因で、雨水を溜め土砂の流出を促進し、路面の浸食を増長させてしまい、山の自然破壊につながると考えられる。

トレッキングポールにはプロテクター（保護キャップ）をつけて使うなどして、少しでも登山道に穴をあけるのを防ぐべきです。

また、折りたたんでザックに収納できるタイプのポールを使用するなどして、使用の機会を減らし、危険地帯には両手が使える態勢にするべきです。



経路脇の石突き痕

## 各岳連の自然保護活動から

(東京都山岳連盟)  
都岳連自然保護委員会は2015年10月18(日)、秋の自然観察会を実施した。22名の参加を得て、秋の里の紅葉を楽しんだ。



## 第16回ライチョウ会議に参加して

平成27年10月25日、静岡市で開催された第16回ライチョウ会議（専門家会議）へ出席してきたので報告する。

今回の専門家会議には一般の参加も認められ、この日集まったのは専門家をいれて150名。第一部が域内保全、第二部が域外保全を主題にし、全部で13課題へのセッションで10時～16時まで熱い論議が交わされた。

対象の鳥類はニホンライチョウで、国の天然記念物で絶滅危惧種に指定されている。環境省では保護増殖事業の対象として、今年の6月に乗鞍岳で採卵を行い、人工孵化を試みた。また、信州大学 中村 浩志 教授や東邦大学 小林 篤 氏の研究グループが北岳でケージ（小屋）を利用した幼鳥保護を実践した。また、上野動物園で孵化させた乗鞍での採卵雛が全部死去したとか、同教授グループのこの8月末に目撃したライチョウの幼鳥をニホンザルが捕食（捕獲）したとのショッキングなニュースが話題を呼んだ。

域内保全では、北岳で2家族に対しケージを用い、夜間には家族をケージに保護して、死亡率が最も高いとされる生後1ヶ月間を過ごさせた。今年は北岳でも行い、收容された家族は約1キロの道のりを北岳山荘付近に設けられたケージまで誘導されてきたという。動画で保育の状況が説明されたが、まるで伝書バトのようにケージに出入りする様子に驚きの声が上がった。1月ほどの保育後、元のテリトリーまで1キロの道のりを誘導していく様子が映像にはあった。

ニホンライチョウの人工（低地）飼育は大町山岳博



物館で1963年に行われ、最高で5世代まで世代交代した。野生より長く8~9年生きた個体もいたが、感染症などで徐々に減りが今は途絶えている。その後、ノルウェイで採卵したスパーバルライチョウ（ノルウェイのスパーバル諸島に生息し、ニホンライチョウに近縁）の孵化が上野動物園で行われ、そこで生まれた雛が富山ファミリーパーク、いしかわ動物園、長野市茶臼山動物園、大町山岳博物館に配られ、現在は国内5カ所で飼育されています。環境省は今年2月、公益社団法人「日本動物園水族館協会」と連携し、種の保存法に基づいてニホンライチョウの人工飼育を今年度から始めることを決定。6月に乗鞍岳（標高3026メートル）で卵10個を採取し、人工孵化（ふか）させた。しかし、上野動物園の分の5羽が7月までに全滅した。富山ファミリーパークでは、7月はじめまでに4羽が孵化したうち3羽が順調に育っている。環境省では5年をめどに繁殖技術の確立を目指すとしている。

質疑応答の中で、採卵から始めるより、幼鳥を捕獲して保育の方がよいのではとの会場意見があったが、動物特有の開眼直後の動くものを親と認識する（インプリント効果）から、飼育には「親」の存在が不可欠のことから採卵・孵化が効果的であるとした。

また、人工孵化・人工飼育したものを自然に戻すことについての一般質問では、そこまでは大きな難関があって、今の段階では予想することはできない。遺伝子や体質（腸内細菌）や酵素（毒物中和など）や感染症の抗体などバイオ的な研究を進めるにはまだまだ先が長いとした。

人知れず山奥に生息するライチョウに秘められた不思議が多々あると感じさせられた会議への参加であった。

### 山の安全と楽しみ全国大会へ参加して

平成27年11月8日~9日、富山県黒部市で開催された山の安全と楽しみ全国大会へ参加してきたので以下に報告する。

黒部市の市政10周年を記念したこの催しには、富山県山岳連盟と日本山岳協会が協力した。

第1日目は、田部井淳子さんの基調講演のあと、「講習1」安全登山教育と情報収集の実践、「講習2」山の楽しみと自然保護教育の実践」と、それらのまとめとして「山での行動指針の提唱」と題した3つのセッションがパネル討議形式で進行した。パネラーには開澤富山岳連理事長、渡邊雄二国立登山研修所アドバイザーなど山岳関係者のほかメディア、観光行政、教育関係者、環境省OBなどが加わり、広い見地での山の安全と山の自然の楽しみ方について6時間ほどにわたって語られた。

最後に、参加者全員により、「山での行動指針」黒部宣言が採択され、懇親会へ移行した。

第2日目は、霧雨の中でエキスカッションが行われ、僧ヶ岳の公衆トイレ建設予定地（標高約1,000m）まで地元の解説を聞きながら登山した。僧ヶ岳は地元ではトレーニングで体調を整えるために登る山ということであった。

### 「山の安全と楽しみ全国大会」

#### 『山での行動指針』黒部宣言（案）

私たちは、黒部の山麓に集い、安全な登山と山の楽しみ方について活発な意見交換を行い、山での遭難やトラブルを未然に防止するためには、“安全に十分配慮して行動すること”が基本であることを確認しました。

また、山の恵みに深く感謝して、謙虚な心で山に向かい、山の自然を守るのも破壊するのも、私たちの行動次第であることを強く認識しました。

私たちは、山の自然と文化を尊重し、地域の人々との交流を大切にして、安全で快適な登山を実践するために、次のとおり「山での行動指針」をここに宣言します。

1. 入山計画を立てるに当たり、自分の体力や技量に見合ったルートを選び、山の状況や気象情報などの収集を行い、余裕のある計画で入山します。
2. 入山時には、自己責任を認識して、「登山計画書の届出」や「早立早着」を励行するとともに、特に下山時に多く発生する事故の防止に努めます。
3. ゴミを持ち帰ることや動植物を大切にすることなど、あるがままの山の自然を保護するために、山でのルールとマナーを守ります。

2015年11月8日（日）  
富山県黒部市にて

「山の安全と楽しみ全国大会」参加者一同

### 会議等

- ◆自然保護委員総会  
平成27年9月12日~13日
- ◆自然保護常任委員  
平成27年9月12日  
平成27年10月15日  
平成27年11月19日
- ◆山岳団体自然環境連絡会  
平成27年9月18日  
平成27年10月30日

\*\*\*\*\*



編集後記 ニューズレター秋号は、第39回自然保護委員総会の報告でページ数が増えてしまった。来季号は通常通りの予定。（松）

発行元  
公益社団法人日本山岳協会 自然保護委員会  
〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館  
☎ 03-3481-2396 📠 03-34891-2395  
HP [www.ima-sangaku.or.jp](http://www.ima-sangaku.or.jp)  
Blog <http://mountprotection.sblo.jp/>  
発行日 平成27年11月24日  
発行番号 2015年秋号 (2015-11 pub1)

### お知らせ

このニューズレターは常任委員会と委員の情報交流として発刊を考えたものです。これからは各地の話題などあれば取り上げてまいりたいと思いますので、日山協自然保護委員各位におかれては、該当の情報をお知らせ頂きたいをお願いします。尚、このニューズレターの配信先は現在のところ委員の皆さまを前提として、現在の通りソフトデータでの配信とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。